

防災対策調査特別委員会 会議記録

- 1 期 日 令和 6 年 2 月 14 日（水）
午前 9 時 24 分 開会
午前 11 時 9 分 閉会
- 2 場 所 第 3 委員会室
- 3 出席委員 委員長 米田 達也
副委員長 義本 みどり
委員 石田 清、木谷 敏勝、
小森 弘詞、福田 嗣久、
村岡 峰男
- 4 欠席委員 なし
- 5 説明員 （別紙のとおり）
- 6 傍聴議員 なし
- 7 事務局職員 総務係長 伊藤 八千代
- 8 会議に付した事件 （別紙のとおり）

防災対策調査特別委員長 米田 達也

防災対策調査特別委員会 次第

日 時：2024 年 2 月 14 日（水） 9：30～

場 所：第 3 委員会室

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 協議・報告事項

(1) 令和 6 年能登半島地震に伴う津波警報発令時の避難行動について

4 そ の 他

5 閉 会

防災対策調査特別委員会名簿

【委 員】

職 名	氏 名
委 員 長	米 田 達 也
副 委 員 長	義 本 みどり
委 員	石 田 清
委 員	木 谷 敏 勝
委 員	小 森 弘 詞
委 員	福 田 嗣 久
委 員	村 岡 峰 男

7名

【当 局】

=出席不要

職 名	氏 名	職 名	氏 名
危機管理部長	山本 尚敏	危機管理課長	畑中 聖史
		危機管理課参事	木下 喜晴
健康福祉部長	原田 政彦	健康増進課長	宮本 和幸
		健康増進課参事兼保健 センター長	村尾 恵美
コウノトリ共生部長	坂本 成彦	農林水産課長	浪華 誠
		農林水産課参事	村田 一紀
		農林水産課参事	山本 隆之
		農林水産課参事	福井 孝道
都市整備部長		建設課参事	北村 省二
		建設課参事	村田 光弘
城崎振興局長	植田 教夫	地域振興課長	藤原 孝行
竹野振興局長	石田 敦史	地域振興課長	山根 哲也
日高振興局長	柳沢 和男	地域振興課長	池内 章彦
出石振興局長	宮崎 雅巳	地域振興課長	三宅 徹
但東振興局長	大岸 和義	地域振興課長	道下 一

上下水道部長	川端 啓介	下水道課長	榎本 啓一
消防長	井崎 博之	本部参事	中地 修
		本部参事	向井 雅人

7 名

【議会事務局】

職 名	氏 名
総務係長	伊藤 八千代

午前9時24分開会

○委員長（米田 達也） それでは、ただいまから防災対策調査特別委員会を開会いたします。

まず、一応一言ご挨拶をさせていただきます。

皆様、おはようございます。本日は、臨時の防災対策調査特別委員会、ご臨席いただきましてありがとうございます。元日に起因しました能登半島地震の津波警報に際して、市民の方から多く議員の皆様も様々なご意見等をお聞きになられていることだと思います。3月定例会までですとちょっと時間が空き過ぎるのかなというのもございまして、すみません、勝手でございましたけども、本日、臨時で、市の対応でありましたりとか、今後についての有益な避難行動に対しての情報の共有ができればいいなと思っております。傍聴も多くいらっしゃると思いますので、本日は忌憚のない意見交換ができればなと思っておりますので、当局の皆様方、よろしくお願いいたします。

甚だ簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。

早速ですが、協議事項に入らせていただきたいと思います。

現在、常任委員会、特別委員会の会議録を市議会ホームページで公開しております。つきましては、委員の皆様、当局の皆様におかれましては、次の2つの点にご留意願います。

1つ目は、数字や年月日などについて、言い間違いのないように正確をお願いいたします。

2つ目は、個人情報や未確定事項などについて、不適切な発言がないように慎重を期してください。

なお、今回の委員会開催につきましては、元日に発生いたしました能登半島地震に伴う津波警報発表の避難行動について、問題点や課題、また、改善点につきまして、委員の皆さん、当局の皆さんと情報交換をすることを目的としておりますので、忌憚のないご意見をよろしくお願いいたします。

それでは、担当課より説明を受けたいと思います。よろしくお願いいたします。

畑中課長。

○危機管理課長（畑中 聖史） それでは、あらかじめ配付させていただいております資料に基づきまして説明をさせていただきます。

まず、資料の見方ですけども、黒字で書いておりますことが市全体のこと、あと、危機管理課で行ったこと、それから、青字が城崎振興局、赤字が竹野振興局というような形で作成させていただいております。黒字についての部分についてご説明をさせていただきます。

まず、1ページ目ですけれども、第1号非常配備体制人数ということで、市長を含めまして250人の職員がこの警報を聞き、出勤しております。

概要ですけれども、1月1日16時10分に能登半島で震度7の地震発生ということです。その1分後ですけれども、16時11分、J-ALERT受信による自動放送で防災行政無線が1回目、自動で流れました。これは推定震度4という状況で流れております。さらに1分後の16時12分に、津波注意報、これが自動的に流れております。16時14分には、震度4の確定ということで、3回目の自動放送が防災行政無線から流れております。そして、16時22分に、4回目の自動放送になりますけれども、注意報から津波警報に変わったということで流れております。このことにつきましては、新聞等でも報道されておりますけれども、もともとマグニチュード7.4ということだったんですけれども、それが修正されて、7.6ということになって、注意報から警報に変わったというふうに聞いております。そのページの下から2行目ですけれども、16時40分に、津波の到達予想時刻を把握したということで、これは出勤した後、テレビを見てということになりますけれども、警報が出まして、17時に一番早く津波が来るというような情報を得ております。

次のページですけれども、真ん中よりちょっと上ですけれども、17時12分になります。防災行政無線の1回目の放送をこの時点で行っております。津波警報が発表されたということで、海岸付近から離れてください、川の近くには行かないでくださいと、少しでも高いところに避難してくださいという放

送を行っております。１７時２３分には、円山川の樋門を閉鎖するというようなことで、国交省のほう動きがあったということを聞いております。それから、１７時３０分に、防災行政無線２回目ということで、津波の第１波の到達予想時刻は経過しましたが、津波は繰り返しますので、避難の継続をということで呼びかけております。これにつきましては、先ほどの第１回の１７時１２分もそうですけれども、戸別受信機、屋外、サイレンつきで流しております。１７時４０分には、記者配付資料第１報ということで、避難者数の報告を記者配付資料ということで流しております。１７時５５分には、防災行政無線の３回目の放送で、２回目と同じ内容を流しております。第１波の到達予想時間は経過しましたが、引き続き避難をということです。これも屋外も鳴らしておるというような状況です。

３ページ目ですけれども、１８時７分に、円山川の樋門の閉鎖、これで全て国交省が考える閉めるべきという樋門は閉めたという報告を受けております。その３つ下ですか、１８時３０分に、第２報の記者配付資料を配付しております。それから、１８時４５分ですけれども、防災行政無線の４回目、これも屋外も流しております。津波に対する警戒が必要ですよということ、それから、警報解除まで引き続き避難をしてくださいという呼びかけをしております。そのページの下から３行目ですけれども、１９時２０分に、結果として最大となりました津居山で４０センチという津波の記録が残っておるということです。

次のページですけれども、２０時の時点で、神戸地方気象台からホットラインが入っております、津波は今後もどうなるか分かりませんので、引き続き警戒してくださいねということで連絡を受けております。こういったことを受けまして、２０時５０分に、市長放送を行っております。５回目となります。夜間に向けて、市の配備体制は継続しておりますということ、それから、夜間でも場合によっては緊急放送を流しますよということ、さらに、海岸付近にお住まいの方は警戒をお願いしますという

内容でございます。一方で、２１時の時点で、第１号非常配備体制の縮小ということで、津波の心配はございましたが、地震のほうはその後、震度４以上の揺れは、兵庫県北部といいますか、豊岡では観測されておきませんので、津波被害の可能性がない日高、出石、但東につきましては解除ということにしております。２２時に、記者配付資料の第６報ということで流しております、この時点で竹野での、こちらが把握している避難者数はゼロというような状況になっております。

その間、ずっと本当にテレビを見るぐらいしか方法がなかったんですけれども、次ページに行きまして、翌１月２日の１時１５分、津波警報が津波注意報になったということでございます。この時点では、もう真夜中ということもございまして、防災行政無線の放送は行っておりません。朝になりまして、９時１０分というのがございますけれども、この時点で神戸地方気象台からホットライン入りまして、１０時に注意報の解除をする見通しですという連絡をいただいております。そのとおり、１０時に津波注意報が解除されたということです。これを受けまして、１１時５５分で、注意報が、地震、津波の注意、引き続き何が起こるか分かりませんよということで、安全確保行動についての放送を行っております。１２時で、本庁も０号配備、本庁、城崎、竹野も０号配備の解除ということです。本庁につきましては、１６時まで待機ということで、一番下にあります１６時終了まで問合せ等に対応するために残っております。

それから、その次のページですけれども、米田委員長からの依頼項目ということで、①、②ということでございます。今回の避難行動、避難誘導に対して、市としての対応は適切であったと認識しているか、それから、今回を受けて、市として今後新たに課題と捉えたことはあるか、また、どんな課題があるかということでございます。

その下を書いておりますけれども、津波被害のおそれがある地区へは、地震が発生した場合、１つとしましては、立ってられないような強い揺れ、２

つ目に、1分以上続く長い揺れ、それから、津波警報以上の発表、それから、市が避難指示を発令、このいずれかを知った場合に、一番近い津波避難場所へ避難してくださいというふうに周知しております。今回につきましては、J－A L E R Tからの受信による自動放送が4回流れ、その後も避難の呼びかけを何度も行っていました。これによって、一定数の方が避難行動を取られたと考えておりますので、呼びかけはしっかり行えたものだと考えております。一方で、防災危機管理意識が薄れているというところもございまして、どこに避難すればよいとか、指示がないと避難ができないという方もいたものと考えております。現在、2月25日号の広報で、関係区のほうに配付して各世帯に配っていただくとしておりますけれども、アンケートを実施することとしております。このアンケートで避難行動を検証し、課題等を市と市民で共有して、より効果的な避難情報の発信や適切な避難行動につなげるよう検討していきたいというふうに考えております。

危機管理課からは以上です。

○委員長（米田 達也） 城崎振興局、藤原課長。

○城崎振興局地域振興課長（藤原 孝行） 城崎の部分につきまして、特徴的な部分だけご説明を申し上げます。

まず、第1号配備になりました、1ページですが、城崎の職員として25名参集をいたしました。この体制で運営をしてみましたが、16時30分に、ご存じのとおり、城崎温泉というのは観光地でございまして、特に1月1日という年末年始の観光シーズンでしたので、今ちょっとまだ人数はしっかりと把握できてませんが、たくさんの観光客がいらっちゃった。特にその時間というのが、外湯に入っておられる方もいらっちゃったという中で、警報を受けて、縦割りの組織ではありますが、状況としては、外湯の対応について検討いたしまして、入浴者については、もう急いで服を着ていただいて、避難をお願いしますと。

避難が完了したら、次のページになりますけども、

16時50分、入浴者については、全員退避された時点で順次休館というふうな措置を行いました。それから、17時20分、城崎庁舎の避難所の開設、それから、18時、港地区コミュニティセンターに避難所の開設というふうなことで、避難場所の開設を順次行いました。それ以外の円山川の樋門等につきましては、先ほど危機管理課のほうから説明があったとおりというふうなことで、国交省からの指示で対応しております。

それから、これは4ページになりますけども、20時のところですよ。避難場所を開設しておるんですが、20時に、JR運休のため、帰宅困難者7名、JRがもう運休してしまった、どこに行ったらいいかわからないというふうな方が7名いらっちゃって、その方が城崎庁舎に避難されて、一夜を過ごされたというふうな状況がございました。これにつきましては、JRに問合せをしても、どういう状況かわからない、見込みが立ってないということで、こちらなかなか情報が得られなかったというふうなことがございました。それから、順次流れまして、最終的には、港地区コミュニティセンターの避難者はゼロでして、そのまま閉鎖をいたしましたし、城崎庁舎の避難場所についても、午前6時30分に、全員、JRが運行するというふうな情報が入りましたので、それをもって、全員、避難場所から退室をされて、6時30分に城崎庁舎の避難場所を閉鎖したというふうなことでございます。城崎については、あと、体制としては、円山川の樋門が開く、国交省からの指示を待つまで、職員が待機するというふうなことで、最終的に職員を数名残して、そのまま警戒に引き続き当たったというふうな状況で推移をいたしました。

以上、ちょっとかいつまんだ説明になりますが、城崎については以上です。

○委員長（米田 達也） 竹野振興局、山根課長。

○竹野振興局地域振興課長（山根 哲也） まず最初の第1号非常配備体制の人数、竹野18人と書いてありますが、これは第1号非常配備体制として決められている人数18人ということで、当日、最終的

には19人参集しております。

竹野振興局独自の対応等ということで、赤字のところをちょっと見ていただいて、順次説明させていただきたいと思います。

16時30分に、竹野の小学校を避難場所として開放したとの連絡が地元在住の校長先生から報告、連絡がございまして、竹野小学校の避難場所をここで開放しております。続いて、16時40分に、駅前区、草飼区の区内放送で避難の呼びかけがある中、竹野庁舎の3階を避難場所として開設をしております。その後、16時45分に、1階と3階に60名ほどのたくさんの避難者があるという報告を竹野小学校の校長先生から受けております。

次のページ、16時50分でございます。竹野庁舎の3階が避難者でいっぱい、収容は難しくなってきたというようなことで、2階も避難場所として開設をこの時点でっております。そして、17時10分に、竹野消防団の副団長より、竹野中学校にかなりの避難者があって、建物内に入れず困っている様子であると、市役所もまだ職員が集まっていないなら、中学校を開けることを手伝うので、鍵を貸してほしいとのことで、17時10分に、中学校の鍵を副団長にお渡しをして開放をしております。そして、18時10分に、市の職員が竹野中学校に到着するまでの間、副団長が2名で対応、待機して対応を取っていただいております。そして、18時10分に、市の職員が竹小と竹中のほうへ詰めさせていただいております。あわせて、消防団によるパトロールも実施をさせていただいております。ずっと行きまして、17時45分に、竹野地区へ避難を呼びかけるということで、一斉放送、戸外、屋外で行っております。

その次のページです。18時03分に、竹野中学校長に対しまして、体育館も避難場所としてるんですけども、暖がないと、暖房のある教室などを開けてほしいとの電話の依頼を行いましたところ、18時08分に、ランチルームを開放するとの連絡がありまして、18時50分、開放をさせていただいております。そして、18時06分には、竹野小学校で

避難をされている方から、いつまで避難したらいいのかというような問いかけが、竹野小学校に派遣しております市の職員に対しましてございまして、それに対しまして、18時10分に、竹野小・中学校の避難者へ派遣職員から津波警報が解除されるまでは基本的には避難を継続してくださいとアナウンスを行っております。18時15分には、工務部によりまして、沿岸部の下町、西町と宇日、田久日方面へのパトロールを実施し、被害がなかったという報告を受けております。18時30分現在、ここに竹野振興局の職員、ここ、17人と書いてございます。その後、京都だとか神戸のほうに出かけておりました職員2名も加わりまして、最終的に20時10分に19人がここで参集をしたということでございます。そして、19時20分に、情報収集いうことで、これ、満潮時というようなことでしたので、また工務部によりましてパトロール、下町、西町の沿岸部のほうへ行って、被害はなかったということでございます。

次のページに行きまして、21時30分、竹野小学校が避難者ゼロとなったということで、校長先生、教頭先生とも、そのような報告があった中で帰宅をさせていただいております。なお、避難場所につきましては、警報が継続中だったため、継続して開いていたというふうなところでございます。そして、23時00分には、この時点をもって、工務部は自宅待機とし、避難場所の開設は、やはり警報が継続中ということなので、継続し、事務局は0号配備体制へと移行をしました。この時点での待機職員としまして、竹野では本部5人、避難救護部4人、調査衛生部2人の計11人というような体制を取っております。そして、1時15分に、津波注意報に変わったというようなことで、竹野庁舎、竹野小学校、竹野中学校の避難場所を閉鎖し、1時50分、庁舎には1名待機ということで、他の職員は自宅待機へと移行をしております。朝の7時に、竹野地区の皆さんには、未明に津波警報が解除されたことから、自主避難場所を閉鎖しましたとの一斉放送を戸別、屋外で行っております。そして、8時30分には、

被害状況等の報告、連絡等があるかもしれない、そのことの対応を取るために、午前中をめどに0号の当番2名の体制にしております。そして、12時に、竹野振興局のほうは、被害情報、報告がないというようなことで、職員のほうは解散、この時点で竹野振興局のほうの配備体制は終えているというようなところでございます。

竹野につきましては、以上でございます。

○委員長（米田 達也） 説明は終わりました。

それでは、質問等ございましたらお願いいたします。

木谷委員。

○委員（木谷 敏勝） 説明をいただきました。今、一応1号配備、0号配備がしかれたということなんですけど、これでは、指揮命令体系が整わないんじゃないかなと。何かあったときに、配備体制だけで対応できるのか。やはり災害対策本部の設置が必要だったのではないかなという思いを持っているんですけども、そこらはどうお考えでしょうか。

○委員長（米田 達也） 畑中課長。

○危機管理課長（畑中 聖史） おっしゃられることはよく分かりますけれども、我々としては、ちょっと正確な時間まで覚えておりませんけれども、市長、副市長も来庁して、相談しながら行動しておりましたので、対策本部を設置すべきだったかどうかということは、確かにすべきだったということは考えますけれども、今回、対応がまずかったということまでは考えておりません。以上です。

○委員長（米田 達也） 木谷委員。

○委員（木谷 敏勝） 第1号非常配備体制という、その体制は多分各地区でやられておるので、先ほど申しましたけども、対応に今回はこれでいけたということですけども、その場、その場で、配備体制だけでどこが決定して、どこでほかとの連絡をしてというのがとてもできていなかったんじゃないかなと思うんですけど、竹野の振興局、あるいは本庁、それから、城崎の振興局、それはどういうふうな連絡の中で、災害対策本部を設置しなくても連絡共有はできていたんでしょうか。その点をお伺いしたい

んですが。

○委員長（米田 達也） 山本部長。

○危機管理部長（山本 尚敏） 本部の体制なんですけども、本部を立ち上げるときの一応基準として持ってますのが、津波の警報が出たとき、それから、地震でいうと震度5弱の地震が発生したとき、これは職員については1号配備体制で自動参集してくると。本部体制については、必要に応じて警戒本部を設置する、そういった基準の状態になります。その中で、当日は、警戒本部、対策本部を設置せずに対応しておったわけですけども、人員的には、市長、副市長はじめ、その警戒本部を立ち上げるに必要な人員というのは、メンバーというのは参集してきている状況にございますので、その中で、電話等での振興局ともやり取りをしながらの対応に当たっていたと、そういう状況です。

○委員（木谷 敏勝） また後でします。ほかの方。

○委員長（米田 達也） ほかの委員さん、ございませんか。

小森委員。

○委員（小森 弘詞） ちょっと聞き漏らしてたら大変恐縮なんですけども、今回の避難指示というか、1号配備に至ったのは、津波警報が出たことを受けての1号配備だったという理解でよろしいですか。

○委員長（米田 達也） 畑中課長。

○危機管理課長（畑中 聖史） 地震、津波の場合は、基本的に自動参集ということになってまして、今、部長も申し上げましたけれども、1号配備の条件としましては、地震の震度5弱、それから、津波警報というところが1号配備の自動参集ということになっています。

○委員長（米田 達也） 小森委員。

○委員（小森 弘詞） それから、周辺、他市、同じ警報が出た隣のまちなんかは、避難指示を早くに出されて、最大限の呼びかけをされていたわけですけども、当市においては、防災無線を通じた呼びかけ自体が、1時間以上経過した後市としての発表が行われているわけですけども、このタイムラグがなぜ起きたのかというのと、他市との温度差がここ

までであるというのはなぜなのか、教えてください。

○委員長（米田 達也） 畑中課長。

○危機管理課長（畑中 聖史） まず、警報イコール避難指示を出さなかったというのは、この冬の寒空の中、時間も夕方4時、我々が着いたのが4時半ぐらいになってましたけれども、そのような段階で避難指示を出して、どこに避難してもらうのかというところがございましたので、ちゅうちょといいますか、避難の呼びかけを繰り返すことでいけるだろうということを考えたのがまず一つです。それから、今の時間の温度差という言い方をされましたけども、こちらとしましては、精いっぱい、どういった放送がいいだろうとかかということを考えてやっておりまして、結果として差がついたというふうに思っております、温度差があったというふうには認識はしていません。以上です。

○委員長（米田 達也） 小森委員。

○委員（小森 弘詞） 避難指示を出して、どこに避難していただくかということだったんですけども、この資料の中にも出てますけど、鍵が開けられないとか、避難先がないというような状況が散見されているわけですが、これは事前に、津波警報が出たときの避難場所としての公的施設の開放手順というのが決まっていなかったということですか。

○委員長（米田 達也） 畑中課長。

○危機管理課長（畑中 聖史） 避難場所、全部で、たくさん、40か所ほどありますけれども、基本的に屋外の施設がほとんどでございまして、開設というような考え方はそもそもありません。警報が出たり、あるいは避難指示を出した場合には、そこに逃げてくださいという考えです。そのうち10か所ほど、建物があるんですけども、そのうち5か所に、震度5弱以上の揺れを感知して自動的に鍵を保管しているボックスが開くというようなことをしておるんですけども、ご存じのとおり、震度3、港の辺りで震度3でしたので、開くこともなかったということです。ただし、これも、すみません、竹野につきましては、竹野小学校の鍵については、竹野浜自治会に預かってもらってありました。そのこと

を竹野浜自治会の方も失念されていたようでして、それを分かっていれば鍵も開けられたという状態もありましたし、最初に、その鍵ボックスを設置したときに、恐らくですけれども、鍵ボックスが開かずに入れなかったらどうするんだといったときに、ガラス割っていただいていいですよと、それにちゅうちょがあったというような報道があったりされてましたけども、そういったやり取りは絶対していませんので、命を守る行動を取っていただくに当たって、そういったこともしていただくというのも一つの考え方なのかなというふうには思っております。ですので、最初に言いましたように、避難所の開設の手順があつてというものではそもそもございませんので、まずとにかく高台に避難してくださいというのが津波の避難の仕方です。そのことについては、基本的に周知はしております。ただ、これも申し上げましたけども、危機意識が薄れていて、そんなんだったつけとか、どこに行ったらいいか分からなかったという方がおられたのではないかなというふうに思っております。以上です。

○委員長（米田 達也） よろしいですか。

○委員（小森 弘詞） ちょっと考えます。

○委員長（米田 達也） 山本部長。

○危機管理部長（山本 尚敏） 津波の避難の関係ですけれども、基本的に職員が参集して、避難指示等の意思決定をして発令するということになりますので、平常時、今の時間でしただけ職員は集まりませんが、休みの日で、通常、今回1月1日ということもありましたので、職員が参集してから避難指示の発令をするという意味決定をして放送をするという手順を踏みますので、どうしても時間がかかってしまいます。それで、津波避難の場合は、基本的に、沿岸地域の皆さんにも申し上げてんですけども、強い揺れがあった場合とか、弱い揺れでも1分以上続いたときだとか、それから、津波警報が出て、津波の発生が予想されるとき、危険があるという状態になったとき、こういうときには、もうすぐ逃げてくださいということで、従来から啓発等もお知らせもしてきておりますし、過去、市一斉で沿岸

部で津波の避難訓練もしたこともありますけども、そのときも、そういった緊急地震速報とか、大津波警報の発表ということを合図に防災行政無線で流して避難していただく、そういう訓練もしてきておりますので、それを前提に、津波の避難の対応というのはしておるという状況でございます。

それから、鍵ボックスの関係ですけども、鍵ボックスを設置したときに、それぞれ各地区で説明会なんかもしております。そのときの資料なんかちょっと見ますと、鍵が開いてないときには、鍵ボックスも壊して入ってくださいというようなことも、その当時は申し上げたりとしていたようでございます。

○委員長（米田 達也） ほかにございませんか。
福田委員。

○委員（福田 嗣久） ちょっと確認ですけども、今回の津波、大したことなくてよかったわけですけども、先ほど避難の人数を見てますと、竹野、竹野、竹野、竹野が非常に多いと。これは、避難指示のではなしに、NHKのアナウンサーが相当インパクトのある放送をすぐしておりましたけども、この影響ちゅうのは大きいんかな。地震が起きて、避難すること、もうすごい女性の声で、初めて聞いたなという感じがしたんだけど、この影響は大きいと思われるってますか。

○委員長（米田 達也） 畑中課長。

○危機管理課長（畑中 聖史） おっしゃるように、私たちも移動している最中だったりして、直接は聞いてないんですけども、テレビ見てないで逃げなさいみたいなことを言われたというふうに聞いておりますけれども、やはり危機感を相当あおられると言うとちょっと言い方あれですけど、刺激されて、それが避難につながったのも大きいと思います。一方で、冒頭説明いたしましたけども、大音量でJ-ALERTからの自動起動で防災行政無線も4回流れてますんで、これはただごとじゃないかと、あわせて相乗効果というのはあるんじゃないかなというふうに思っております。

○委員（福田 嗣久） それで、震度4という発表の

中で、津波予報が、今これ、時系列で見させていただくと、第1波20センチ、40センチとか、こういう数値が出ておりましたけれども、避難対象地域というのが竹野でどれくらいあった、避難対象地域、津波で避難する場合の。それが、今これを17時40分で見ると、60人、60人、60人、10人、城崎が10人か。避難対象地域ちゅうのは、竹野でどれくらいあったわけですか。地域と人口と。その対象地域でどれくらい逃げられたのかなということがちよっと知りたい。それは竹野と、それから、もう一つは城崎もそうだしね。それから、津居山がえらい少ないなという気がして、その辺の実態がどうなのかということ少し聞いてみたいということです。対象地域の例えば300人いらっしやって、100人避難されたとか。500人いらっしやって、もっと少ないかしらんけど、そういう津波の場合の避難の対象地域はどれくらいあったもんですか。私は、もう一番山のほうで、テレビ見ておったぐらいですから、よく分かりませんが、実は。

○委員長（米田 達也） 山根課長。

○竹野振興局地域振興課長（山根 哲也） 地域としては、11地区でございます。何人ぐらいということでは、ちょっと把握はできてないんですけども、浜自治会の住民としては約2,000人は超えてたというようなことでの情報をお聞きしております。

○委員（福田 嗣久） 1,000人。

○竹野振興局地域振興課長（山根 哲也） 2,000人。

○委員（福田 嗣久） あっ、2,000。

○竹野振興局地域振興課長（山根 哲也） はい。

○委員（福田 嗣久） 城崎はどうなんですか。

○委員長（米田 達也） 植田振興局長。

○城崎振興局長（植田 教夫） 城崎地域なんですけども、ハザードマップを見ますと、今回の地震に対しては、最大3メートルということで、大きな被害とか影響はないとは感じておりました。対象地域といたしましては、城崎の湯島地域とか、桃島地域、それから、今津地域、そういったところが主な対象

地になるんですけども、そちらについては、住民の方で約2,000人程度、2,000人ちょっと、2,500ぐらいかな、です。ただ、城崎地域につきましては、観光客の方が……。

○委員（福田 嗣久） 多いですね。

○城崎振興局長（植田 教夫） いらっしゃいました。旅館に泊まられての方が大体二千数百人、そして、日帰りの方がその若干加わるということで、住民の方よりも多い方々が当時はいらっしゃったというふうに想定しております。以上です。

○委員（福田 嗣久） 津居山はどうなんですか、本庁の管轄だろうけども。

○委員長（米田 達也） 畑中課長。

○危機管理課長（畑中 聖史） 港地区につきましては、ちょっと人口が分からないです、世帯数で1,200世帯ぐらいが対象に、今度アンケートするので数字を拾っております、1,200世帯ぐらいかなというふうに思っております。

○委員（福田 嗣久） だとすると、2,000人程度だろうな。

○危機管理課長（畑中 聖史） そうです、もうちょっとですかね。

○委員（福田 嗣久） もうちょっとなるかもだね。

○危機管理課長（畑中 聖史） はい。

市が把握している数字ということで、記者発表している数字で最大で560人ほどが、これもちょっと約だとは思いますが、それが竹野振興局ですとか、竹野小学校、中学校に避難されてるわけなんですけれども、それ以外に、先ほど申し上げました津波の避難場所として指定しているところが42か所ございますので、そちらのほうに行かれてる方もたくさんおられると思います。その津波避難場所は誰々さん宅の裏山みたいなのがございますので、我々も当然行けませんし、避難された方も、こっちから上がるのと、こっちから上がるのというようなこともあろうかと思ひますし、中には、もうさっと上がって、さっと帰られたということになると、ピーク、どれぐらいおられたかというのはちょっと把握できない。そのために今度アンケートを

したいと思っておるんですけども、そういったことで、実際、避難すべき住民の何割が避難したかというところがちょっと今分からない状況でございます。アンケートしても、全員回答が来るわけではございませんので、アンケート答えられた方の何%が避難されたというようなことが分かってくるのかなというふうに思っております。

○委員（福田 嗣久） 大体雰囲気としては分かってきましたけれども、大変難しい、把握の……。どうぞ。

○委員長（米田 達也） 植田局長、どうぞ。

○委員（福田 嗣久） 私が指名するの、おかしい。

○城崎振興局長（植田 教夫） 避難の状況をちょっと言い忘れておりました。避難につきましては、10名程度、城崎振興局には避難されていたんですけども、東山公園に20数人、それから、旅館にお泊まりの方がその地域のちょっと高いところにある公民館というか、集会所に100人程度、一時的にずっと避難されたというふうな情報は入っておりますけれども、いかんせん、ちょっとそういったものも散見しておりますので、直接把握しているという状況ではございません。以上です。

○委員長（米田 達也） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） ごめんなさいね。

雰囲気としてはちょっとつかまえていただきました。大変難しい、さっき課長が言われましたけど、時間帯も難しい中での、先ほど私も申し上げました、大変インパクトがあるNHKの放送がありましたんで、かなり避難されたのではなかろうかなとは想定できるわけなんですけれども、その避難の逆にリスクも一つあって、闇に紛れてちゅうのは、暗闇になると余計怖いですから、その中で、1人けが人が出てましたね。これは何歳ぐらいの方で、その後の様子はどんなのかということをやっと知りたいなと思って。どこに逃げられて、どうなられたのかと。

○委員長（米田 達也） 畑中課長。

○危機管理課長（畑中 聖史） 正確なお年はちょっと分かりませんが、80代の女性です。逃

げられたのは、竹野の休暇村の遊歩道というところがございまして、地区でいうと西町区の方で、登っていく山道があるんですけども、道幅としましたら、車が通れますので、1.5メートルぐらいはあります。その30センチぐらいを除いた1メートル弱ぐらいのところにアスファルトがあって登っていくというようなところなんです。今言いましたのりに近いところがきっちり舗装されてなくて、よくお寄りの方が乳母車みたいなやつを、手押し車というんですかね、それを持っておられたそうです。後ろから、後ろから、多分人が行かれたんだと想像するんですけども、ちょっと寄ったときに、斜面でタイヤが取られて、ご家族の方が言われるのは、手を離せばそれで済んだのになら、年寄り hands を離さずに、そのままずっと1メートルか、1.5メートルぐらいの崖といいますか、斜面に滑っていかれてしまったと。現場も見てきたんですけども、やはりお年寄りということもございまして、太ももの辺りですか、大腿部といったら太ももですかね、を骨折されたということを聞いております。けがをされた方の状況は以上です。

○委員（福田 嗣久） もう一つ、申し訳ないんですけども、避難地域の方で、避難困難者という方が当然いらっしゃると思うんですけども、認知症であるとか、あるいはまた、足の悪い方とか、その辺の雰囲気はどんなふうに捉まえられましたか、事後の、今のことですけれども。

○委員長（米田 達也） 畑中課長。

○危機管理課長（畑中 聖史） 正直、その辺のところが分からないというのが正直なところです。それもありまして、繰り返しですけども、アンケートをした上で、ご家族にそういう避難するに当たって難しい方がおられますかというような問いを入れて聞いていきたいなと思っております。風水害の場合は、あらかじめ、ある程度の時間を持って避難をしてもらえるということがございますので、そういった方は、いわゆる要援護者というような言い方ですか、要支援者という、いろんな言い方ですけども、地区のほうで、あるいはご家族の方で何とかお

願いますよというふうに言っておりますけれども、津波の場合、今回、能登半島であった地震で約1時間弱が津波の到達予想だったわけですけども、もっと危険だというか、この辺りの断層がずれて地震が起こるというのは、もう最短で10分ということも言われておりますので、おっしゃるように、その辺のいわゆる避難困難者という方の避難対策というのは、もうすごい課題だと思っております。本当に非常に、口では、避難、とにかくしてくださいとはいうものの、じゃあ、そういう人を見捨てていくんかということにもなりかねませんので、ちょっと非常に難しいかなというふうに思っております。

○委員長（米田 達也） はい、どうぞ、村岡委員。

○委員（村岡 峰男） 何点かお聞きをしたいと思うんですが、私、まず、この元日の4時という、普通、人間のこの社会の中で、正月の4時というのがどういう時間かというの考えたら、僕は職員の皆さんと、1号配備で150人、本庁の場合、酒飲んでる人おるでしょう、正月で。その辺はどうだったのかな。よくぞ150人集まんなったな。というほうが、むしろ私、感心するんです。職員の皆さん、市の職員さんはすごいなと。何も本庁だけでじゃなくてね、あとの支所も含めて、私個人、考えたら、この時間、やっぱり飲んでますよね、正月元日で。親戚も来て。そういうことを思うと、まずは、職員の皆さん、すごいなということをまず私は思いました。その辺がどうだったのかな、もし何かあればお聞かせください。

それと、先ほどから鍵のボックスのことが出てましかけども、震度3だから開かないんだと。豊岡は全体として震度4だったのかな、言われたのがね。だから、場所によっては、それは震度3と言われながらも、豊岡は震度4ということで、その地域も4になってしまったと思うんですけど報道的には、一般的には。震度3だから開かないと。けども、あのNHKの放送なんか聞いたら、みんな、それは避難しますわな。でも、開いてへんということで、そのボックス以外には鍵の所在というのは、ほかにはないのかなというのを、もし解れば教えてほしいの

と、そのボックスはどこどこ配置をされてるんでしょうか、まず、その辺ちょっとお聞かせください。

○委員長（米田 達也） 畑中課長。

○危機管理課長（畑中 聖史） まず、正月の夕方の時間でということですけども、正直、私も一杯入ってまして、たまたま車を運転できる息子がいて、飲んでなかったんで、送ってもらいました。参集してきた人間でちょっと赤ら顔の人間かなりいたと思いますけども、もうここは正直な話ですけども、飲酒運転してきている者はおりませんでしょうし、使命感で来たんだというふうに思っております。

それから、津波のボックスの件なんですけれども、まず、設置されているところが、これが小島になりますけども、脇漁具製作所という会社がございまして、そちらのほうを避難所に指定しておりますので、そこに1つ。それから、港中学校で、今の港小学校、昔でいう港東小学校のほうです。旧港西小学校、それから、竹野小学校、この5か所にこのボックスが設置されております。それ以外に建物が5か所あると申しましたけれども、その一つとしましては、市役所の竹野庁舎が一つ、それから、竹野中学校、それから、田久日の集会施設、それから、竹野のB&Gと、竹野の旅館のふじわらさんというところを避難所として指定させていただいております。だから、建物は10か所、うち5か所がこの鍵ボックスがついているということです。鍵ボックスがついていないところは、普通であれば人がいるであろうとか、地域の集会施設であったりするので、そこら辺は区長さんのほうにお願いというようなことで、この5か所に限定したんだというふうに思っております。

鍵の保管の方法はということなんですけれども、竹野小学校につきましては、先ほどもちらっと申し上げたように、竹野浜自治会が持っておりますし、実は、竹野の振興局の宿直のところにも1個、鍵があったというふうなことです。それ以外は、体育館が社会体育で利用されてて、振興局が預かっているというようなケースがありますけれども、それ以外のものはもう校長先生が持っているとか、そういったことで、我々、この危機管理部門ではちょっと把

握していないというふうな状況です。以上です。

○委員長（米田 達也） 石田局長。

○竹野振興局長（石田 敦史） 先ほど畑中課長からも話がありましたけれども、まず、竹野中学校の関係について、この時系列で説明も触れているんですけども、先ほど社会体育施設の開放施設という格好で、竹野中学校の体育館の鍵は振興局も持ってるんです。避難所として開設するときに職員がまだ配置されてなかったんで、先に消防団のほうに鍵をお渡しして、体育館を開放しておったんですけども、やはり時間が経過するたびに、やっぱり暖が必要だというふうなところで、竹野中学校については、ランチルームを開けてもらうようなことで、私のほうから校長先生通じて何とかランチルームのほうを開けて暖を取るようなことをお願いできないかということで、ちょっと大分時間が経過したわけなんですけれども、18時50分にランチルームも開放して、暖が取れるような、そういった対応もさせていただきました。なかなかその辺の学校の施設まで入っていけるというふうなところがまだなかなか取れてないような状況でありますので、その辺はまたいろんなアンケートの検証をした上で今後の対応の在り方というようなことも検討すべきじゃないかなというふうに思ってます。以上です。

○委員長（米田 達也） 村岡委員。

○委員（村岡 峰男） ありがとうございます。

なかなか大変なことだったんだなというふうに改めて思うんですが、それと、もう一つお尋ねしたのは、新聞でも後々大きく取り上げられてましたけども、小森さんの質問にもありましたけども、近隣町との違いですね。香美町や新温泉は、避難指示を出されましたな。豊岡はその指示は出してないということで、結果的にはどちらも被害がなくてよかったんですけども、指示を出さなかったことに対する、結果オーライではなくて、出さなかったことに対する何か評価というんかな、今現時点でどのように評価されとるんかな。よそが出し過ぎだからとなっておるのか、いやいや、豊岡は慎重にしたんだよということなのか、その辺ちょっと聞かせてくださ

い。

○委員長（米田 達也） 畑中課長。

○危機管理課長（畑中 聖史） 結果オーライでは駄目ですよというふうにはおっしゃられるんですけども、結果として被害がなかったの、ここの、今回出さなかったということについては、先ほども申し上げたような理由がございますので、結果として来なくて、本当によかったなというふうに思っております。今後のことですけれども、やはり今後のことをきっちりしていく必要があるんだと思いますので、そのことについては、アンケートを、する、すると言っておりますけれども、アンケートで避難をしなかったという方がおられて、避難指示が出なかったというのがあまりにも多いというふうなことが分かってきますと、当然出すというようなことも検討していく必要があると思います。そもそも人はそうやって言われないと逃げないということも事実だとは思いますので、今後は、そういったところは、津波警報イコール対策本部設置、避難指示、警報と同時にというようなところも検討すべきところかなというのは思っております。問題はどうか、一番は避難すべき人が避難していただくというのが一番だと思いますので、そのためにこうしたほうがいいということが分かれば、当然そういうふうにさせていただきたいと思います。以上です。

○委員長（米田 達也） よろしいですか。

ちょっと1点、説明をお願いしたいところがありまして、今回、3メートルという警報の数値が出てたかと思うんですけども、恐らく危機管理課においては、避難指示に至らなかった根拠として、あれは気象庁でしたっけ、先日、部長にお伺いしたプレートのところでは何メートルの津波が来るであろうという予測が出たときに、1メートルを少しでも超えてくると3メートルの表記になるというようなことがあってということも大きく今回の本市の対応に至った経緯で、根幹ではないかなと思うので、ちょっと今日、多く傍聴議員がいらっしゃるんで、その警報の根拠といいますか、それをちょっと説明をお願いしたいんですけども。

山本部長。

○危機管理部長（山本 尚敏） 気象庁の出す注意報とか警報の基準があるわけなんですけども、津波警報の場合は、予想される津波が1メートルを超えて3メートル以下、この範囲の間に入ってくる場合に、津波警報が発表されると。注意報の場合は、20センチ以上、1メートル以下、この範囲に予想される津波の高さが入ってくると、注意報が発表されるということになってます。実際にこの津波の予想というのは、全国でいうと、日本の海岸を66に区分して発表されるわけなんですけども、兵庫県の場合、兵庫県北部という区域で一律に発表されます。当日は、津波注意報から津波警報に変わって、津波警報は最大3メートルの津波が予想されるということで発表されます。実際に算出された予想される津波の高さではなくて、津波警報の範疇に入る場合は、最大3メートルというふうに発表される。注意報の場合は最大1メートルということで発表されるということで、実際に算出された津波の高さというのは、これは発表されません。それについても、その情報については、我々も同じで、実際にマグニチュードと震源地、そこから蓄積された過去のデータとか、シミュレーションの結果だったか、そういったところをベースにして、この地域では最大、津波の高さ何メートルというのが算出されるわけなんですけども、それについては、ちょっと我々も分からないということがありますので、避難指示を出す出さない、そういったことを判断するときに、その部分については、理由としてはないという状況です。予測としては左右の京都府と鳥取県の区分のところが注意報レベルなので、警報といいながら、そんなに高くはないだろうという想像はしますけども、その想像を根拠にして警報を出す出さない、避難情報を出す出さないということは判断はしてません。先ほど課長のほうから申し上げましたような理由がございまして、それを前提に、津波警報が出てから、市役所のほうで判断して、防災行政無線でお知らせするという、ここまでのタイムラグは大分ありますので、その時間がたった後にさらに避難指示を出す

ということになりますと、避難しなくてもいいような人も含めたところで一律に、状況の悪い中で避難を促すということになりますので、二次被害を心配して、避難指示は出さなかったというような状況でございました。

○委員長（米田 達也） ありがとうございます。
ほかに委員の皆さん。

小森委員。

○委員（小森 弘詞） 何度もすみません。その避難指示なり避難情報の提供についてなんですけども、まず、避難指示ですけども、これは今回は津波警報に対して、地震と津波警報に対してのものだとすれば、誰がどこでどのタイミングで決断をして、避難指示を出されるんでしょう。

○委員長（米田 達也） 山本部長。

○危機管理部長（山本 尚敏） 最終的には、避難情報を出す権限といいますか、そこは市長にございますので、我々がいろいろと状況を見る中で、意見具申をして、最終的に市長の判断で発令するというような流れでございます。

○委員長（米田 達也） 小森委員。

○委員（小森 弘詞） この資料を見る限り、職員の方が、さっき村岡委員がおっしゃったように、1月の元日の大変な中、ご参集いただいていることにはすごいなと思うんですけども、その発令権者である市長や副市長、それから危機管理課も含めて、この方々が情報が十分集約できる場所に来られた時間というのは、いつなんですか。

○委員長（米田 達也） 畑中課長。

○危機管理課長（畑中 聖史） 正確な時間までちょっと正直いますか、実は把握はしておりませんけれども、我々も取りあえず防災無線を流した、第1報で流した後、さあ、どんな情報が出てくるのか何も分からないような状況で、はっと気づくとお二人とも、2人というのが、市長と土生田副市長ですけどもがいらっちゃって、どういう状況だというようなことで、もうすぐに相談をしてたというような状況ですけど、ちょっと正確な時間は分からない状況です。申し訳ありません。

○委員長（米田 達也） 小森委員。

○委員（小森 弘詞） 気づかれたらおられたということは、避難指示を発令しなくてよいという判断はどこのタイミングでされてたんですかね。というか、相談をされてたんですか。

○危機管理課長（畑中 聖史） もちろん当然相談してですけど。

○委員（小森 弘詞） でも、いつおられたか、いつ来られたかも分からない状況で、どう相談されておったんかがちょっと釈然としないんですけど。

○委員長（米田 達也） 畑中課長。

○危機管理課長（畑中 聖史） この資料は、職員の行動だけをばっばつと入力するようなシートをまとめたもので、市長、副市長の指示とかまではちょっと書いておりません。そういう資料じゃございませんけれども、繰り返しで申し訳ないんですけども、ちょっと時間がきっちり分からないですけども、5時過ぎ、5時台、放送が終わった後なので、5時半ぐらいだったと思うんですけども、こういった放送を今流しましたというようなことで報告して、このまま避難を呼びかける方向でいきたいと思います。避難指示については、先ほど申し上げたような冬の夜になっていくというような時間ということで、屋外の避難場所ということでございますのでという相談をして、分かった、分かったということで、指示をもらって、決定したということになります。だから、会議とかという形式は取っておりませんけれども、そういったことで報告して、じゃあ、それで、そのまま避難呼びかけるようにということで行っております。

○委員長（米田 達也） 小森委員。

○委員（小森 弘詞） それは、畑中課長が市長とやり取りされているということですか、危機管理部長ではなくて。

○委員長（米田 達也） 畑中課長。

○危機管理課長（畑中 聖史） 我々で相談して、危機管理課の職員と市長、副市長とで相談してということですので、私一人というわけではございません。

○委員長（米田 達也） 山本部長。

○危機管理部長（山本 尚敏） 先ほど課長が言いましたように、気がついたら市長が出てこられたみたいな話だったですけど、市長も市長室に籠もっておられたわけじゃないんで、危機管理課の事務所のところにいらっしゃいましたんで、そこで話をしたというような状況でございました。

○委員長（米田 達也） 小森委員。

○委員（小森 弘詞） ちょっとよく分からないんですけど、市長の登庁時間も分からない、いつ市長と話をして判断を下してもらったのかも分からないということですか。

○委員長（米田 達也） 山本部長。

○危機管理部長（山本 尚敏） 先ほど課長が申し上げましたけども、最初に、防災行政無線の放送をした後ということは確かでございますけども、そこを何時だったか、何時何分だったかということになると、ちょっとあやふやなところがございますけども、状況としては、その流れの中で行っております。

○委員長（米田 達也） 最初の放送の後。

○委員（小森 弘詞） 5時半の放送。

○委員（村岡 峰男） 2回目の。

○危機管理課長（畑中 聖史） 1回目の放送の後だったと思います。

○委員（村岡 峰男） 1回目の。

○危機管理課長（畑中 聖史） 17時12分です。

○委員長（米田 達也） 12分から17時30分の間。小森委員、よろしいですか。ちょっと、じゃあ、考えといて。

義本委員、どうぞ。

○委員（義本みどり） 今回、幸いにも被害が、おけがされた方だけだったので、それはよかったんですけども、これをいい勉強材料にすべきやと思うんです。まず、勉強材料にするということで、どのようなこと、これを役立てて、防災意識が薄れてるというようなご意見もたくさん出てるかと思うんですけれども、やはり日頃何も起こらないと、私たちは、当然ですけども、もう防災意識は薄まりますよね。その防災意識をポイント、ポイントで高めることに、今回の件を役立てることがとても重要だと

思うのですが、何か考えておられることがありますかということが1点と、それから、先ほど学校のランチルームを寒かったので、開けていただいたということは、この寒い時期に起こったから、当然起こり得ることというのを身にしみて分かったかと思えますので、教育委員会と事前に協議をして、その場で開けていただかないといけないかというような交渉をするのではなくて、そういう場合はこうしますというようなところまで教育委員会と協議をする必要があるのじゃないかということ。それから、この前、多文化共生の推進会議に出席してましたところ、FMジャングルのほうで、英語で避難を呼びかける放送をずっと流していたと。阪神・淡路大震災の後のときだったかな、サンテレビのほうでずっとそれを、いろんな言語を使って呼びかけていたというような情報提供がございまして、今、豊岡市の中にも1,000人以上でしたね、たしか、の方がいらっしゃるので、どうやって今後避難を呼びかけるかということを協議をしていく必要があるのじゃないかと。それから、ごめんなさいね、障害者福祉計画とかの傍聴に行っている中で、障害者の避難をどうするかというところで、避難先とその現場で病院がなってるんだけれども、なかなかそこがスムーズに話がいけないというようなこと、ご意見も出てますので、大変かとは思いますが、いろんな多機関と調整していかなければいけないことがたくさんあるかと思えますので、またそこら辺のところも連携していただければと思います。

それと、もう一つ、アンケートはどのような内容で、どのような範囲でするかというのを教えていただきたいと思います。

○委員長（米田 達也） 畑中課長。

○危機管理課長（畑中 聖史） まず、勉強材料にして、今後何をするかということですが、間違いなくしていかないといけないというのは、やっぱりそういう啓発というわけですけども、改めて地震が、大きな揺れがあったりですとか、先ほどちょっと申し上げました、あるいは長く続く場合、津波警報が発表された場合、そういったときには、とに

かく避難してくださいねと。避難に当たってはこういう場所が指定してありますということを改めてお知らせをしたいと思っております。ただ、そういうことをしようとすると、また広報ですとか、別に資料を作ると、また配り物が多くなるとか、そういうこともございますので、その辺、例えば市のLINEですとか、エックスに登録してくださいとか、あるいは、防災アプリなんかを入れてくださいというような呼びかけをして、定期的にそこでやっていくというようなことをきっちりしていきたいなと思っております。

それから、避難で教育委員会との連携ですとか、英語での呼びかけ、障害者等のということですが、事、津波に関しましては、先ほども申し上げました、一番早く来る可能性があるという断層が揺れて地震が起こった場合は10分ということがございますので、結果として、言葉あれかも分かりません、何もなかったから、こんな寒空にランチルームでも開けてくれんかということになったと思うんですけども、実際津波が来てたらそんなこと言てられないんだと思います。もちろんそういったきっちり連携などはしていく必要があると思うんですけども、まずはとにかく高いところに逃げてください、これしか危機管理部としては言えないのかなというところがございます。じゃあ、歩きにくい人だとか、日本語が分からない人は見捨てるのかと言われると、その辺はちょっともう回答のしようがないところが実はあるんですけども、何らかの方法でそういった、例えば外国人の方でしたら、国際交流協会ですとか、そういったところにも連携を取りながら、また、毎年、出前講座なんかにもお呼びいただいておりますので、そういったところで啓発とかもしていきたいなと思っておりますし、福祉部門ともきっちり連携を取りながら、自分たちに何ができるのかというところは考えていただきたいなと思っております。

それから、アンケートの内容ですけれども、全体的に言いますと、まず、あなたはどこに住んでいましたかとか、住んでいますかという属性を聞く部分

と、津波警報を聞いたときにどういう行動を取りましたか、そもそも避難しましたか、避難しようとした、しようと思ったけど、できなかった、あるいはしなかった、この3つを基本に、こういったタイミングでこういった行動を取りましたか、こういった情報をどうやって見聞きしましたかというような内容で、最後は、今後、市に対してこういうことはというご意見がありますか、あるいは、自分自身でこうすべきだということはございますかみたいなフリー、自由記載の欄とかも設けまして、10分から15分程度で回答がしてもらえるような内容としております。以上です。

○委員長（米田 達也） 義本委員。

○委員（義本みどり） すみません、言葉足らずで申し訳ございません。今回の津波のことの避難の材料を、津波だけでは、災害はないので、今は津波の対応だけで、とても大変かと思うのですけれども、冬場の避難ということを、津波だけではないですよ、起こることが。ということで考えていただければという意味で申し上げたんですけれども、言葉足らずで大変申し訳ありませんでした。

それから、アンケートの範囲は。

○委員長（米田 達也） 畑中課長。

○危機管理課長（畑中 聖史） その冬場の避難ということで、はい、すみません、理解いたしました。できることをきっちりやっていきたいと思っております。

それから、アンケートの範囲ですけれども、城崎地域は城崎地域、旧城崎町全部です。竹野は、竹野地区コミュニティ管内といいますか、旧の竹野小学校エリア全部です。港は、港地区全部ということで、先ほど申し上げました、ざっと3,000世帯余り対象ということにしています。以上です。

○委員長（米田 達也） 義本委員。

○委員（義本みどり） すみません、また言葉足らずで大変申し訳ありません。外国人の方とか障害者の方ということも申し上げたのも、津波だけではなくて、今後、全てのことを考える、津波、今回のことを全ての災害のところに役立てることが必要なかなと思いましたので、そういう意味で申し上げま

した。

それと、もう1点、ちょっと今、私の区の隣保長をしておりまして、防災委員長、よう分からん役が、よく分からないというか、初めての役が当たっております、その中で、夫が留守のことも結構ありまして、私が何か区長さんから連絡があって、区の防災委員に連絡を取って、今回も区の会館に集まったりもしたんです。その中で感じることもなんです、そういうところに出てくるのは男性ばかりなんです。例えば消火栓のある場所を同じ隣保の中の女性陣が知ってるかといったら、知らないんです。だから、そういう全ての人に対してLINE等で呼びかけるというのも大切なことだとはもちろん思うのですが、あまり防災意識、そういうことに関わってこない女性とか、あと、若者もあまり関わってないのではないのかなと思われまいますので、そういう人たちにどうしたら届くのかなというようなこともどこか頭の片隅に置いていただければと思います。これはお願いでございます。

○委員長（米田 達也） ほかに。

○委員（福田 嗣久） 一つだけよろしいか。

○委員長（米田 達也） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） これとは直接関係ないんですけども、この震度4という表記がなされますけど、これ、気象庁だと思うんですけども、豊岡で震度4という表記があったんですけども、これはどこの基準で、さっき私が申し上げた、気象庁がどういう発表をするのか、どこの基準なんですか。

○委員長（米田 達也） 畑中課長。

○危機管理課長（畑中 聖史） 桜町のところの測候所のところの震度計です。

○委員（福田 嗣久） なぜ聞かかいうと、震度4の感覚があんまりよく分かってないんで、震度4という、私は酒飲まずに、ちょうど4時10分、テレビ見とったんですけどね。震度4という表記があって、いや、村岡さん責めてるわけじゃない。見てて、震度1ぐらいかなと思ったもんですから、その震度4と、その基準が豊岡で1か所だけなんだろうなと思っておったんですけども、阪神・淡路大震災のとき

の揺れ方と全然違って、ふっという、こういう感じで揺れたなと思ってるんですけど、阪神・淡路は、どんと来たような揺れだったんで、あのときも震度4でしたかいな。

○委員長（米田 達也） 5ですね。

○委員（福田 嗣久） 5か。震度5。だから、地域的に相当差があるなということと思うんです、実は。経験はあんまりしてないんで、よく分かりませんが、震度4で30センチ、1メートルの津波、こういったことが、雨量とか積雪量の場合は、雲の動きをずっと見てますんで、大体見当がつくんですけども、この地震は突然やってきて、それも広い豊岡市の中でそれぞれ違うんでね、震度が。その辺でどうなのかなと思って、今後の勉強であれしとかなあきませんけど、但東の場合も大きな断層が走ってますので、だから、地震に対する警戒もしとかなあかんということで、実のところ、郷村断層と山田断層ちゅうのがクロスしてますので、あれが揺れたときに、あれが動いたときに丹後大震災で2,900人から、ちょうどもう但東から10キロ、15キロのところでわしゃわしゃといってますんで、100年前、99年前かな。あれは2,900人亡くなってるんですけども、そのときも但東町は1人だけですよ、亡くなってるのが。だから、不思議だなと。地震ちゅうのは不思議なもんですけども、不思議だなという気がして、震度の捉え方をちょっとよく勉強しとかなあかんな思ったりもしてました。全く今回は関係ない話なんだけどもね。ちょっと聞かせていただきました。ありがとうございました。

○委員長（米田 達也） 木谷委員。

○委員（木谷 敏勝） 今までにずっと聞かせてもらって、一番初めに言いましたように、やっぱりこういいうとき、決定はいつ下し、どこで何をしているかといったことがいまだに曖昧で、小森委員が質問しても答えようがないというのが、ちょっと問題があると思う。これは何でかいうたら、危機管理部は、こういう災害が起こったらすぐ逃げてくださいね、その部署は一生懸命してもらおう。そして、避難所開設は、ここの部署がしてもらおうという。ほんなら、

震度3でも避難所開設せなあかんというのは、やっぱり災害対策本部をすぐ立ち上げて、市長以下が命令を下したら、すうっとそういう役割分担ができて、災害に備えることができて、それはどこで決定しました、こういう意見を聞いてというのができるんですけど、結局は、非常配備体制だけでやっていたいことで、個々の対応ですっとしていて、それがもう一つ、結果的に何もなかったんで、よかったのはよかったんですけども、これから竹野地区もアンケートが出てくる、これからまたアンケートをどっかされるといことで、3以下の、マニュアルどおり、こうなったら鍵は開きませんか、そういうことじゃなくて、災害本部をすぐ立ち上げるという、そういうことを考えていただいて、みんなで災害に対する対応をしていくという体制を取り、その責任者が市長であるということをもっと明確に位置づけてやってほしいなと思うんですけど、そういうふうな考え方はいかがですか。

○委員長（米田 達也） 畑中課長。

○危機管理課長（畑中 聖史） おっしゃるとおりだと正直思いますんで、今回のことを受けて、次回からきっちりさせていただきたいと思いますので、おっしゃるとおりだというふうに考えます。

○委員長（米田 達也） 木谷委員。

○委員（木谷 敏勝） 危機管理部だけが一生懸命ではなくて、みんなで市民を守っていこうという気持ちを、やっぱり災害対策本部を受けて、決定をする人間がちゃんという体制を構築してください。以上です。

○委員長（米田 達也） 石田委員。

○委員（石田 清） その木谷委員の関連でちょっと質問させてもらいますけども、市長とホットラインというようなものはあるのか、ないのか。集まれといったって、集まれるわけないですから、こういうとき。そのホットラインがきちっとつながるような形になっているのかどうか。そして、つながらなかった場合、権限移譲の形はちゃんとなっているのか。つながらなかった、次の責任者は副市長だ、次は危機管理部長だというような形できちっと決め

られているのかどうか。そこをちょっとお聞きしたいと思います。

○委員長（米田 達也） 山本部長。

○危機管理部長（山本 尚敏） ホットラインという関係ですけど、専用の電話はあるわけではありませんので、携帯電話では登録をしてありますので、それは随時、直接携帯電話でやり取りというようなことをしております。それから、連絡が取れなかったときの場合の順位の関係ですけども、おっしゃってありましたように、市長が不在の場合は副市長で、お二人の副市長がいらない場合は危機管理部長と、そういった流れで順番があらかじめ決められておりますので、その中での対応ということになります。

○委員長（米田 達也） 石田委員。

○委員（石田 清） 携帯電話でのやり取りをするというのは、こういうときに、例えば市長の携帯電話にいっぱい入ってきておりますから、連絡が取れないという状態が起こりかねないと。やはり直通に連絡を取れるような体制を考えていくべきではないのかなというふうに思いますし、それはそれとして。

もう一つ、この中にも一つ出ておりましたけども、何ページだったかな、例えば1日の18時6分、竹野小学校避難者からということで、いつまで避難したらいいのかという問合せがあったと。新聞にもちょっと載ってたんですけども、実際、時は夜になってきて、情報が全然入ってこない。豊岡市じゃなかったと思いますよ。豊岡市じゃなかったと思いますけど、それで、夜が入ってきて、孤立感を非常に感じたというコメントが載ってございましたけども、先ほど課長のほうから、携帯で防災アプリがというような話がありますけども、まだスマートフォン持っていない方もおられますし、お年寄りの方が特に孤立感を感じたと言われるんですから、アプリ見てくださいでは、なかなか難しい。だから、何遍も豊岡市から避難情報、避難放送をしてるんだということであっても、確かに情報的な孤立感を持ってる方がまずは多いと思います。それが一つ。

さらに、今回は、屋外への避難者が多かったとい

うふうに、人数は把握できませんけれども、そういう印象を受けております。避難所に指定しとるところよりも、自分が思うところにぱっと行っている人、車が上がるころみたいな話で、詰まっていたというような話も聞きますし、そうすると、正月という冬の中でしたし、夜になってくると、それこそ暖房もない、情報もない、どうしたらいいかわからない、一晩明かすだけでも大変なことになっているというようなことがありますので、避難と物資の在り方、それから、情報の在り方、そこら辺もちょっと考えていただきたいなと思いますし、竹野のほうから何か地区で、何かそこら辺の状態をもう一度検証されているというような話も聞きましたけども、もしそういうものが出てきたら、私もちょっと見させていただきたいなと思いますし、地区の考え方と実際の行動と市のここで考えてる状態が大分違うというふうに思いますんで、そこら辺のところをよろしくお願いしたいと思います。以上です。要りません。

○委員長（米田 達也） よろしいですか。

ほかにございませんか。

村岡委員。

○委員（村岡 峰男） 一つだけ確認させてください。

この1ページの表の中に、4時10分に地震が発生と。4時11分にJ-A-L-E-R-Tで緊急地震速報。我々が地震速報を聞いたときには、既に能登では地震がもう起きた後だったんですか。これ見たら、そうなっちゃうんですけど。地震速報があつて、その後地震が起きてると違うんか。ちょっとそんな疑問。

○委員長（米田 達也） 山本部長。

○危機管理部長（山本 尚敏） 地震が起こったのが16時10分で、緊急地震速報自体は、地震が起こる前に出されるのが緊急地震速報になりますので、その緊急地震速報を受けて、それで自動的に防災行政無線でそれを放送できたのが16時11分、そういう、ちょっと順番はそういったような流れにはなりますね。だから、実際に緊急地震速報が出たのと、それを受けた防災行政無線の放送との間にちょっとタイムラグがあるということになります。ですの

で、実際に自分の携帯やスマホなんかで緊急地震速報を受信されたのが一番早い手元に入る地震の情報ということになります。

○委員長（米田 達也） 村岡委員。

○委員（村岡 峰男） というのは、この豊岡市の防災無線での放送の時間ですか。

○委員長（米田 達也） 山本部長。

○危機管理部長（山本 尚敏） そういうことでございます。

○委員（村岡 峰男） じゃあ、我々が聞いてたのは、ラジオであつたり、スマホであつたりというのは、地震よりも前にいうことで実際にあつたし、それを聞いて、私も止まっている車の中で聞いたんですけども、すぐ出たら、それから地震が来ましたのでね。ああ、大きな地震だと思って、だけど、豊岡は震度4でもふさわしいぐらい揺れました。但東は小さかったか知らんけど、豊岡はよう揺れました。

○委員（福田 嗣久） そんな感じへなんだな。

○委員（村岡 峰男） ということで。分かりました。

○委員長（米田 達也） ほかに委員の皆さん、ございませんか。

本日、傍聴に多くいらしておられる議員さんがいらっしゃるしまして、お時間もございますので、二、三質問をお受けしたいかと思うんですけども、もしご質問ございます方、あれば挙手にてお願いいたします。

前野議員、どうぞ。

○議員（前野 文孝） これは、委員会の継続ということなんですか。

○委員長（米田 達也） はい。ちょっと僕の独断で意見、ほかにあればということで、お願いしたいと思います。

○議員（前野 文孝） 発言をお許しいただきましてありがとうございます。

私も木谷委員のおっしゃるとおりでありまして、こういう防災対策というのは、やっぱりトップの決断、そして、防災対策のどういうふうな議論なされたというのが検証にとって一番必要でありますので、今回出された資料は、職員の動きということで

フォーカスされてますけども、やはりしっかりと市長、そして、副市長、危機管理部長、それから、各振興局長が何時に来たのか。そして、どんな会議が開かれたかというのもこの資料の中に含めていただきたい。その中で、本当の検証ができるんだろうというふうに思ってます。そこを明示していただきたい。危機管理部のほうで分からないかもしれませんが、秘書広報課のほうではつかんでいるはずですし、過去の例から見ても、市長が来られたら、すぐに協議が何らかの形で、報告という形で行われるはずですので、その経緯をしっかりとそこに示していただきたいと思います。これは要望でいいです。

それから、今度、アンケートが取られますけども、該当地域の区長の皆さんは、この内容に非常に興味を持ってらっしゃいまして、今の形だと、直接、各家庭に配られて、回収は直接なされる。分析がなされるわけなんですけども、こういったものについて、区長のほうにも、各区でどのような意見が上がってるのか知りたいというふうなご意見がありますが、これに対してはどのように対応されるのか。もしくは、アンケートを集めた結果をどのようなスケジュールで分析をされ、どのように計画に生かされるのか、このスケジュール感についてお伺いしたいと思います。以上です。

○委員長（米田 達也） すみません、畑中課長。

○危機管理課長（畑中 聖史） 前段でおっしゃったことは、当然だと思いますんで、きっちり今後させていただきたいと思います。

それから、アンケートの件ですけども、これも先ほちょっと私、言葉足らずでした。配付は各区長さんを通じて配付していただきます。回収のほうは、スマートフォンとかで、これも持ってない方は直接なんですけども、スマートフォンなどで回答いただく、いわゆるウェブ回答というパターンと、紙に直接書いていただいて、返信用の封筒を同封しておりますので、それを送ってもらうというパターンをやっております。内容につきましては、ちょっと個人情報みたいなところもございますので、あまり細かいところまで区長さんにお伝えしていいのか

どうかというところがございますけれども、アンケートの公表に際しては、当然区長さんにもこういったことであるということでお知らせしたいと思えますし、分析結果として、広く公表はしたいと考えております。スケジュールですけれども、今年度中に何とかと思ったんですけども、やはり年度末のこともございまして、本当にぎりぎりというようなことがございまして、3月の15日にアンケートの締切りを一応しております。3月末までにそのアンケートの入力等、返ってきたものを読み込ませたりとか、我々でちょっと手入力する部分もございますけども、そういうことをやって、このアンケートの分析を兵庫県立大学のほうに委託をしております、そちらのほうに3月末までにデータを届けて、分析をしていただくというふうに考えております。5月の半ばから終わりにかけて、例えば、市民への説明というようなことで、ちょうど市政懇談会がございしますので、そういったところで区長さんにお知らせをしたいと思っておりますし、6月の議会のときに、ごめんなさい、その前に4月に事務概要の委員会がまたあると思いますけれども、そのときには中間報告とかを議員の皆様にもさせていただきたいと思っておりますし、6月の議会のときにも、こういった形でということで報告をさせていただきたいというふうに考えております。取りあえず以上でございます。

○議員（前野 文孝） ありがとうございます。私から以上です。

○委員長（米田 達也） あともう一人。

じゃあ、岡本議員、どうぞ。

○議員（岡本 昭治） すみません。1点ちょっと確認というか、なんですけども、津波予想が3メートルとあります。この津波予想の以上に津波が来るといことがあるんでしょうか。ちょっとそれだけ確認させていただきます。

○委員長（米田 達也） 畑中課長。

○危機管理課長（畑中 聖史） 言い方としましては、最大3メートルという言い方をされますけども、それより絶対下だという保証はないのが正直なところ

ろです。ですんで、やはり、取りあえずまず逃げていただかないと、その後、大丈夫かどうかも分からないというところはございます。

○委員長（米田 達也） 岡本議員。

○議員（岡本 昭治） すみません、関連して、なぜお聞きしたかといいますと、先ほどけが人が出られたときの話の中で、4メートルだから大丈夫だという話が出てたと思います。これというのは、本当に一番危険な話だと思いますので、4メートルのところでも津波が来ますよという前提で、前提という言い方、津波はもうどれだけ来るか分からないという前提で計画を立てていただくとか、先ほどの会話の中でも市民の方に説明していただくことが大事なというふうに思います。まず逃げていただいて、高いところへ逃げてくださいということが大事なと思いますので、またそういうことも含めて、検討していただきたいなと思います。ありがとうございました。

○委員長（米田 達也） ほかにございせんか。もういいですか。しゃべりたいか。

じゃあ、芹澤さん、最後、お願いします。

○議員（芹澤 正志） すみません、ちょっとしゃべりたいもので。数年前に津波が、我々の地区、ちょうど今の城崎警察センターの前辺りの地区では、当時は絶対1メートル以上の津波は来ることはないから、我々の近くは、うちの建物の2階以上、それから、もうちょっと上になると、大江戸温泉の2階以上に避難してもらえば大丈夫だという話があったもので、うちの近所の人たちはそれをもう信じて、ちゃんともうみんなそれをちゃんと把握できてたので、うちで30人ぐらい避難された。あとは東山公園に上がったみたいなきことがあったんですけども、その話と今と、こんなにずれがあるのも何か何でかなという。というのが、結局もう何メートル、3メートル以上でも4メートルでも来る可能性はあるってなれば、本当に、先ほどありましたように、城崎の中、もっといっぱいになれば、従業員が二千何百人と、宿泊者が約5,000人になると、もうそれこそ、もう七、八千人の方が、4メートル、5

メートルでも可能性があるとなったら、全員一気に避難しなければいけない。そのところが、どこまで信じたらいいのかというところが、前は1メートルまでしか来ないって聞いてたのが、どうなのか、その辺の整合性がどうなのかなというところが疑問ですので、今後どういうふうにそれを整理して、城崎としてはどういう対応をすればいいのかというところが今非常に悩ましいところですので、もちろんこれから検証されていくんでしょうけども、ちょっとその辺はいかがでしょう。

○委員長（米田 達也） 山本部長。

○危機管理部長（山本 尚敏） おっしゃること、よく分かります。悩ましいのは我々も本当に悩ましいところで、一応基準として今つくってるのが、兵庫県のほうで、最大の津波想定をしたというのが、今お配りしてます津波のハザードマップで色のついておところが津波の浸水想定区域ということになっております。一応の線引きは出て、津波の危険がありますよとはっきりと申し上げられるのは、我々がよって立つところはこのハザードマップだけということになります。おっしゃられるように、どこまでだったら大丈夫で、絶対かどうかと言われると、我々もはっきりとお答えするすべがございません。一応基準となるのは、あくまでもこのハザードマップで、あとは、どれだけゆとりを持って考えてるかということについては、本当にもうそれぞれご本人にお任せするしかないというところが正直なところでございますので、そこら辺りは個人で考えるのか、あるいは一定の地域単位で考えていただくのがいいのか、そういったあたりは一つの大きな課題だとは思いますが、どっかではっきりと私どものほうで線引きをするということとはなかなかできるものではないというふうに思っております。

○委員長（米田 達也） よろしいですか。

ほかにないようですので、この辺にとどめまして、令和6年能登半島地震に伴う津波警報発令時の避難行動については、この程度でとどめておきたいと思います。

以上で協議は終わります。

そして、4番、その他でございますが、委員の皆さん、ほかに何かございましたら、補足といたします。

畑中課長。

○危機管理課長（畑中 聖史） 1点、気象台から教えていただいたことをちょっと先ほどからお話しようと思って。マグニチュードが0.2増えると、地震のエネルギーが2倍に増えると。4になると、2の倍の4、2、4、8、16、32となるというようなことがまずありまして、マグニチュードが1違うと32倍で、32掛ける32になりますので、2違うと1,000倍エネルギーが違ってくるというのがあるのが一つということ。それから、津波注意報から津波警報に変わった理由として、先ほどマグニチュードが7.4から7.6に修正されたということで、そこで0.2ですんで、エネルギーは倍というようなことがあって、注意報から警報になったと。それがさらに7.8とかになってくると、出ていなかった京都府北部ですとか、鳥取の辺りも、ずっともう山口の辺りまで警報が出るというようなシミュレーションになっているというようなことをお聞きしています。それから、日本海側の津波というのは、中国大陸とか朝鮮半島に当たって返ってくる分があるというようなことがあるので、非常にもう1時間たったから大丈夫ということが言いにくいということがあるようでして、今回も16時10分の地震で注意報に変わったのが、翌1時15分でしたので、6時間、7時間か、七、八時間かかっているというようなことがございます。ですので、これが本当に日本海側で地震が起こったら、ずっと同じことになりますので、皆さんからありました外の避難所はどうしていくんだというようなこともあるんですけども、高いところに行くしかないというようなところがございますので、今後いろいろ考えてはいきたいとは思っておるんですけども、なかなか非常に難しいというところをご理解いただきたいなと思っております。

ちょっとマグニチュードの話と津波の返ってく

るというお話を漏らしておりましたので、以上です。

○委員長（米田 達也） すみません、じゃあ、ちょっと最後に、私、当該竹野地域の議員としまして、幸い、当委員長も務めさせていただきますので、1点、最後にご確認なんですけども、最初に、私のほうから、依頼項目ということで、市としての対応が適切だったかというふうな認識を問うたんですけど、この回答だと、ちょっとよく分からないというか、適切な部分もあるけど、適切じゃない部分もあるよというような、じゃあ、適切じゃないんじゃないかというふうに捉えてしまうんですけど、その上で、2番の課題として捉えるというふうにつながるかと思うんですけど、その辺の認識としては、どう捉えたらよろしいんですか。

山本部長。

○危機管理部長（山本 尚敏） 当時の判断としては、私どもとしては適切な判断をしたというふうに思っております。ただ、この判断が住民の皆さんの避難行動を阻害するようなことにつながったかどうかということになれば、そこは改めていくべきだと思いますので、その辺りのことは、アンケート調査する中で、しっかりと確認をして、今後考えていきたいというふうに思っております。

○委員長（米田 達也） ありがとうございます。

そして、もう一つなんですけども、実際、今般の市の対応いかんは置いておいて、今後どうしていくかということがかなり明確に、実際に、避難の訓練ではなくて、行動ということで、今回かなり実際の災害を想定した行動になったというか、もう実際に起こったことなんで、あったと思うんですけど、それでよく、さんざん今日も意見として出てまいりましたけども、やはり自助と公助の明確化はすごく必要じゃないかなと思いました。やっぱり避難所と避難場所が同じ敷地内にあったりする場所も多くありますので、港にしても、竹野地区にしても。その場合、やはり迅速に避難、逃げてこられる方を受け入れられるように開錠を早く迅速にしてあげること、あとは、避難場所、避難所がない高台に逃げなければならない港地区でありましたり、竹野の中で

も幾つかそういう場所があるかと思うんですけど、そういうところに安全にそこまで避難をしていただけのような安全な経路を確保してあげるということが多分公助じゃないのかなと。やっぱり、先ほど寒かったですとか、個人的に持ち出して、防災無線が入りにくいですとかという意見も多々お聞きしますが、防災無線も持ち出しができるということも先日、市長が放送でしていただいたりもしましたけども、やはり備えといいますか、よくこれまで、畑中課長なんか、竹野で区長さん方とお話ししているときに、津波がいざ本当に来たときどうするんだというようなことをよくやりましたよね。あれも、やっぱり想定がこうだから、避難のどこまでの必要性があるということもやっぱり明確にお示した上で話して、自助と、公助というのはもうここまでしかできないということはやっぱりある程度ちょっと周知の必要があるんじゃないかなと思いますので、今後に生かしていただけたらと思います。

なお、災害のことですんで、またいつ起こるとも限らないことですので、なるべくスピード感を持って対応をできればいいんじゃないかなというふうに思ってますんで、ちょっと勝手なお願いにはなるんですけども、ちょっとご意見として申し上げさせていただきたいと思います。

すみません、それでは、以上をもちまして本日の防災対策調査特別委員会を終了いたします。ご苦労さまでした。ありがとうございました。

午前 11 時 09 分閉会
